



カトリック中央協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN

会 報

《2020年4月号（578号）》

目 次

報 告

・定例司教総会	1
・常任司教委員会	3
・社会司教委員会	4
・諸宗教部門	5
・難民移住移動者委員会	5
・カリタスジャパン	7
・正義と平和協議会	9
・部落差別人権委員会	11
・子どもと女性の権利擁護のためのデスク	13
・HIV/AIDS デスク	14
・中央協議会事務局（総務）	15
公文書	15

定例司教総会

■2020年度定例司教総会

日 時	2020年2月17日（月）14：00－19日（水）17：00	
場 所	日本カトリック会館 マレラホール	
出席者	会 員	16人
	来 賓	1人
	オブザーバー	4人
	司教総会事務担当スタッフ	6人

報 告

1. 高山右近の列聖申請のための管轄権移転について

大阪大司教 前田万葉枢機卿は、菊地 功東京大司教の同意のもとで、福者ユスト高山右近の列聖申請の管轄権を大阪大司教に移転するよう列聖省に申請し、2019年10月11日に承認されたことが報告された。これにより、今後、奇跡の審査など列聖省との交渉、聖遺物の管理、列聖式の挙行に関わる国内および教皇庁国務省・列聖省との交渉などに関して、大阪大司教が責任を持つことになる。

2. ミサの奉献文における教皇の呼称変更について

典礼委員会から提案された、現行ミサの奉献文中の「とりなしの祈り」で「わたしたちの教父〇〇〇〇」とされている部分について、今後「わたしたちの教皇〇〇〇〇」と変更し、読み替えることを2020年2月の常任司教委員会で承認したことが報告された。各教区へは、総会終了後、典礼委員会より変更箇所を通知し、周知を図る。

3. 学校教育委員会での取り扱い事項について

- ①学校教育委員会が現在検討している宗教教育サポートプロジェクトに関する報告が行われた。
- ②学校教育委員会として、教皇庁教育省発表文書（「神は人を男と女に創造された 教育におけるジェンダーの課題に関する対話の道に向かって」）を邦訳したことが報告された。

4. 広報委員会の立ち上げ検討のためのプロジェクトチーム設置について

2019年11月の教皇訪日において、広報の重要性が再認識されたと同時に、司教協議会内に常設の広報委員会がないことに伴う問題が顕在化したことを受け、司教協議会内に広報委員会を立ち上げるための準備を行うプロジェクトチームを設置し、その担当を菊地 功大司教と酒井俊弘司教に依頼したことが報告された。

審 議

1. 「すべてのいのちを守るための月間」設置について

- ①日本の教会として2020年より、毎年9月1日－10月4日（聖フランシスコ（アシジ）修道者の記念日）を「すべてのいのちを守るための月間」とした。
- ②上記月間の内容については、司教総会での諸意見を反映させた具体的事項を常任司教委員会が作成する。

2. 教皇訪日を受けた今後の対応について

常任司教委員会から提出された、教皇訪日を受けた以下の具体的取り組みを承認した。

- (1)2020年6月23日に那覇教区で行う「沖縄慰霊の日」に日本司教団として連帯し、司教参加のもと、平和メッセージを発表する。平和メッセージ最終案文確認のために、2020年5月13日に特別臨時司教総会を開催する。
- (2)2020年5月18日－22日に広島で開催される Pax Christi International 世界大会の開会ミサに、可能な限り全司教が参加する。
- (3)教皇来日1周年記念行事とミサを日本司教団主催で12月9日午後2時から、カトリック麹町教会（東京教区）において開催する。なお、記念行事内容は今後、常任司教委員会で検討する。
- (4)教皇訪日を受けた今後の日本の教会の対応を考察するための準備として、以下の事項を行う。
 - ①カトリック中央協議会ウェブサイトに掲載されているアンケート（4月末まで掲載予定）に、信者も含め、一般の人々に回答してもらう。
 - ②各教区からも、このアンケートへの回答を信者や小教区に呼びかけ、また各修道会の協力も得ながら、より多くの回答をもとに、今後の日本の教会としての取り組みや教皇が日本で発信されたメッセージを今後の福音宣教に生かす方法について検討する。
 - ③上記アンケート以外にも、教皇訪日を受けた後の教区での方針や日本の教会としての対応に関する教区や修道会としての意見があれば、2020年4月末日までに司教協議会に送信してもらう。

3. 中村倫明司教の司教協議会での役職について

中村倫明司教を、2020年2月18日より2022年度定例司教総会終了時まで、部落差別人権委員会担当司教と諸宗教部門担当司教に任命した。

4. 2020年アジア司教協議会連盟（FABC）総会代表参加者について
2020年11月3日－20日にタイのバンコクで開催されるFABC総会の代表参加者を以下のとおり確定した。

役職上の参加	司教協議会会長	高見三明大司教
	司教協議会副会長	菊地 功大司教
	枢機卿	前田万葉枢機卿
常任司教委員会推薦司教		勝谷太治司教、ウェイン・バートン司教、 ヨゼフ・アベイヤ司教、山野内倫昭司教
5. 「日本の教会における司祭生涯養成プログラム」について
司教総会での諸意見を加味して修正した「日本の教会における司祭生涯養成プログラム」を承認した。
6. 2019年度（宗）カトリック中央協議会収支決算書案について
 - ①2019年度（宗）カトリック中央協議会収支決算書案を、2019年度（宗）カトリック中央協議会収支決算書として承認した。
 - ②本司教総会終了時（2020年2月19日）から2022年度定例司教総会終了時まで、勝谷太治司教の後任の監事を山野内倫昭司教に依頼した。

常任司教委員会

■2月定例常任司教委員会

日 時 2020年2月6日（木）10：00－14：00
 場 所 日本カトリック会館 会議室2
 出席者 委 員 7人
 事務局 6人

報 告

1. 2020年船員司牧(AOS)100周年に向けた準備について
1920年10月4日にスコットランドのグラスゴーでAOS活動が始まってから今年で100年になることを受け、教皇庁人間開発のための部署のタークソン枢機卿の呼びかけに応え、難民移住移動者委員会とAOS部会でAOS100周年に向けた準備を開始したことが報告された。

審 議

1. 2020年定例司教総会議案について
本年2月17日（月）－21日（金）に開催予定の定例司教総会で取り扱う事項を確定した。
（詳細は2月開催の2020年度定例司教総会報告参照）
2. ミサの奉献文における教皇の呼称変更について
現行ミサの奉献文中の「とりなしの祈り」で「わたしたちの教父○○○○」とされている部分について、今後「わたしたちの教皇○○○○」と変更し、読み替えることを常任司教委員会として承認し、2月の定例司教総会で報告を行った後、典礼委員会から全教区に周知する。
3. 2020年度「司教の集い」の準備について
2020年度定例司教総会会期中に開催する「司教の集い」のプログラム・講師・時間配分・作成資料の確認を行った。
4. 2019年度（宗）カトリック中央協議会収支決算書案について
財務委員会から提出された2019年度カトリック中央協議会収支決算書案を、2020年度定例司教総会へ常任司教委員会から提出する正式な同収支決算書案とすることを承認した。

5. 教皇訪日答礼巡礼について

教皇訪日を受けた答礼巡礼の同行司教を以下のとおり確定した。

- A コース ローマとアッシジ巡礼（8日間）6月1日－8日
前田万葉枢機卿、大塚喜直司教
- B コース ローマとフランスの周遊巡礼（11日間）6月1日－11日
高見三明大司教、浜口末男司教
- C コース ローマとルクセンブルク・ドイツ巡礼（10日間）6月1日－10日
菊地 功大司教、梅村昌弘司教

社会司教委員会

■第35回社会司教委員会事務局会議

日 時 2020年2月5日（水）16:00－18:00
場 所 日本カトリック会館 会議室5
出席者 5人

報 告

1. 社会福音化推進部月例部会(1月14日)について報告した
2. 2020年出前研修会案内一式を全教区教区長、事務局長あてに送付した。
3. カトリック大阪教会管区部落差別人権センター主催の講演会「ハンセン病問題を終わりにできるかー家族訴訟の団長として」(2月15日)に、社会司教委員会の浜口末男委員長が出席する。

審 議

1. 2020年平和旬間会長談話(案)の原案を、正義と平和協議会で作成した。
2. 沖縄慰霊の日(6月23日)に、司教団で那覇教区平和巡礼に参加し、魂魄の塔(沖縄・糸満市)で会長談話を発表する案について、次回社会司教委員会(2月18日)で承認のうえ、常任司教委員会に提案する。
3. 司教のための社会問題研修会(12月11日－12日)について
社会司教委員会事務局案として群馬県草津にある栗生楽泉園の訪問を、次回社会司教委員会(2月18日)に提案する。
4. 「ハンセン病謝罪声明」発表後の対応に関する部落差別人権委員会からの提案を、次回社会司教委員会(2月18日)に提出する。
5. 『今こそ原発の廃止を』英語版の広報について
英語版は、当初、カトリック中央協議会のホームページにPDF版を掲載するのみにとどめる予定であったが、教皇訪日後、帰国の際の機内記者会見で原発に反対する個人的な見解を述べたことから、これを日本のカトリック教会から、脱原発を呼びかける好機と考え、冊子として出版し、積極的な広報を行うことを、次回社会司教委員会(2月18日)で承認のうえ、常任司教委員会に提案する。
6. 社会司教委員会顧問の役割について
以下の事務局案を次回社会司教委員会(2月18日)に提出する。
<事務局案>
諮問役として、顧問を1人置き、社会司教委員会定例委員会に出席を願う。そのほか協力を願いたい研究者については、リストアップしておく。
7. 次回社会司教委員会(2月18日)の議案について確認を行った。
8. 次回社会司教委員会合同会議(3月12日)の議案について確認を行った。

9. その他

- (1) 2020年の年間予定を確認した。
- (2) 社会司教委員会事務担当の交代について

諸宗教部門

■2020年度第1回会議

日 時 2020年1月30日(木) 17:00-18:30
場 所 日本カトリック会館 会議室2
出席者 9人
欠席者 1人

報 告

教皇訪日「平和のための集い」(広島平和記念公園)について、協力委員が報告した。

審 議

1. 諸宗教部門の目的および方針について
同部門の目的と方針を示す資料が作成されてから19年が経過したので、現状に合わせて再確認、あるいは再検討していくために、明確にすべき事項を整理した。
2. 2020年度の活動計画について
意見交換した内容と上記1とを合わせて、次回会合で活動計画の策定を行うことを確認した。

次回日程 第2回会議 2020年3月17日(火) 日本カトリック会館

難民移住移動者委員会

■なんみんフォーラム(FRJ)運営委員会

日 時 2020年1月27日(月) 15:00-17:00
場 所 イエズス会 岐部ホール 404号室(東京・千代田区)
出席者 カトリックより1人

報 告

1. 第3四半期会計・活動報告
2. 2019年度難民支援者全国会議、また難民に関するシンポジウムの準備状況について報告があった。
3. 2019年度大村入国管理センター(長崎・大村市)との意見交換会に出席したメンバーから、入管施設
の状況と、施設関係者との意見交換について報告があった。

審 議

1. FRJのビジョンとミッション、アクション修正案を検討し、審議を継続することになった。
2. 2020年の世界難民の日(6月20日)に向け、FRJとして具体的なアクションを検討することを確認した。

■2020 年度第 2 回事務局会議

日 時 2020 年 2 月 5 日 (水) 9:15-11:00

場 所 日本カトリック会館 会議室 4

参加者 7 人

欠席者 2 人

報 告

1. 前回議事録を確認した。
2. 2020 年度社会司教委員会出前研修について、「多国籍の教会共同体」への依頼が新潟教区より来ており、東京管区代表で委員の高木健次師を派遣することが報告された。
3. 1 月 27 日-28 日に東京で開催された「同和問題にとりくむ宗教教団連帯会議（同宗連）研修会」について、今回初めて外国人の人権がテーマに取り上げられたということで、内容や講師、訪問先案などの企画協力を行ったことが報告された。

審 議

1. 船員司牧 (AOS) 100 周年に向けた準備について、常任司教委員会での報告内容を確認した。
2. ベトナム人司牧関連の進捗と審議
 - ・3 月に予定しているベトナム人司牧者ネットワーク会議・研修会の内容や対応について協議した。
 - ・川口教会 (さいたま教区) での感染症対策セミナーにて配布するため、ベトナム語の HIV 啓発リーフレットを HIV/AIDS デスクの協力も得て準備していることが報告された。
 - ・ゆるしの秘跡ベトナム語日本語対訳リーフレットについて進め方を確認した。
3. 入管問題キャンペーンの取り組みに向けて、定例委員会で提案する企画案を確認した。
4. 中期計画書・アクションプランの進捗確認
 - ・アクションプランの進捗確認フォームを作成した。定例委員会で確認する。
 - ・委員会のウェブサイトにも、各地の取り組みについて紹介を行っていくことを確認した。
5. 大阪でのタリタクムセミナーの日程が、4 月 17 日 (金) に決定したことが報告された。午前中に運営委員会、午後に英語話者のためのセミナーを開催する。

■2020 年第 1 回定例委員会

日 時 2020 年 2 月 5 日 (水) 11:00-16:00

場 所 日本カトリック会館 マレラホール

出席者 15 人

欠席者 3 人

報 告

1. 前回議事録を確認した。
2. アドボカシー・啓発プロジェクトの報告
 - ・会議に先立ち、三度目の難民認定申請中のアフシンさん (病気のため入管施設から長期仮放免中) の証言を聞いた。
 - ・入管収容問題を中心に、プロジェクトの報告があった。
 - ・藤田 恵師より、緊急治療が必要なため仮放免となったペルー人信徒のケースについて報告があった。
3. タリタクム日本より、「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」(2 月 8 日) に関する報告があった。
4. 船員司牧 (AOS) より、AOS100 周年を迎えるにあたって今年度の取り組みについて報告があった。
5. ベトナム人司牧者会議・研修会準備の進捗報告があった。
6. 排除 ZERO キャンペーンは昨年末で終了し、今後、報告書や啓発小冊子を作成することが報告された。

審 議

1. 運営委員の任期を明記した、タリタクム日本規約改定案が承認された。
2. 専門部会および言語別司牧担当者の囑託などに関する内規案が承認された。
3. 今年度の全国教区担当者・実務者ネットワーク合同会議において、司牧者と実務者に分かれて議論や共有を深める時間をどのように確保できるか意見交換を行った。
4. 入管収容問題キャンペーンの目的と具体的な内容について議論した。引き続き事務局会議で進める。
5. 中期計画アクションプランの進捗確認フォームを確認した。あわせて今後、委員会のウェブサイトで、各地の取り組みを広めていくことが紹介された。

■難民移住労働者問題キリスト教連絡会（難キ連）運営委員会

日 時 2020年2月19日（水）17:00-19:00

場 所 日本キリスト教協議会 会議室（東京・新宿区）

出席者 カトリックより1人

報 告

1. 英文ニュースレターの発行および国内教会への活用報告書送付の報告
2. 学習サポートプログラムの報告
3. 会計報告

審 議

1. 日本語ニュースレターの発行について
2. 次年度の予定について

カリタスジャパン

■第1回カリタスジャパン委員会・部会合同会議

日 時 2020年1月29日（水）10:00-14:00

場 所 日本カトリック会館 マレラホール

出席者 19人

カリタスジャパン 50周年記念日にあたり、菊地大司教が50周年記念メッセージを読み上げ、全員で記念の祈りを捧げた。

報 告

1. 事務局報告
 - (1)活動報告と2020年スケジュール確認
 - (2)排除ZEROキャンペーン関連進捗報告
 - (3)2020年全国教区担当者会議
10月7日（水）頃に日程変更になる可能性がある。
 - (4)2020年四旬節キャンペーン準備状況
2. 援助部会報告
 - (1)援助審査結果
 - (2)年間援助実績（2019年1月-12月）

(3) 災害関連

①国内災害（台風19号関連）

②完成した災害対応マニュアルの配布予定が報告された。

3. 啓発部会報告

審 議

1. 2019年度決算内容を承認した。
2. 50周年記念事業について
 - (1)50周年周知のための実施事項について検討した。
 - (2)記念イベント日程について検討した。
 - (3)50周年記念事業の取り組みに関する意見交換を行った。

次回以降日程

4月28日（火）	10：00－16：00	（合同会議 10：00－14：00 部会会議 14：00－16：00）
6月16日（火）	10：00－16：00	（同上）
9月8日（火）	10：00－16：00	（同上）
10月6日（火）	10：00－16：00	（同上）
12月15日（火）	10：00－16：00	（同上）

■第1回援助部会会議

日 時 2020年1月29日（水）14：00－16：00、1月30日（木）9：15－15：00

場 所 日本カトリック会館 会議室4

出席者 9人

審 議

1. 援助部会活動計画（2020年－2024年）
 - (1)今後の援助活動の方向性を検討した。現行の「海外支援の基本理念（1999年版）」を「援助方針」として改訂する。
 - (2)現在の援助先を精査し、地域別に具体的な計画を立てた。
 - (3)活動報告促進について意見交換を行った。
2. 海外会議・視察
 - (1)カリタスマンマーパートナー会議（3月6日、7日）は不参加とする。
 - (2)インド視察（5月4日－10日）を承認。支援プログラムを視察し、今後の協力についてカリタスインドと協議する。
3. 援助審査
国内4件、海外4件を審査、以下7件を承認、1件を却下とした。
 - (1)仙台教区サポートセンター(SDSC)「東日本大震災復興支援SDSC・石巻ベース活動費（2020年度）」
5,807,814円
 - (2)カリタス釜石「2020年度被災地復興支援事業」 22,579,807円
 - (3)カリタス南三陸「台風19号による被災地支援事業」 1,149,415円
 - (4)カトリック東京ボランティアセンター「福島県内外における被災避難者への支援システム構築10年次（2020年度）事業」 6,004,805円
 - (5)バングラデシュ「少数民族教育支援フェーズVI（1/3年目）」 50,000USドル
 - (6)モンゴル「カリタスモンゴル事務局支援」 25,000USドル
 - (7)モンゴル「子どもセンター支援」 25,000USドル

次回日程 2020年4月28日（火） 14:00-16:00 日本カトリック会館

■第1回啓発部会会議

日時 2020年1月29日（水）14:30-16:00、1月30日（木）9:15-15:00

場所 日本カトリック会館 マレラホール（29日）、会議室2（30日）

出席者 10人

審議

1. 50周年記念事業

(1) カリタスソングについて

動画作成、訳詞、日本語歌詞の検討を行った。

(2) 50年のあゆみ

カリタスソングに合わせて、写真などのスライドショーで動画を作成。動画の最後にこれからに向けてのメッセージを入れた案を事務局で準備し、4月28日の合同会議で提案する。

(3) ポスター募集

カリタスジャパンの次の50年、新しい歩みを後押しするポスターを一般募集する。

(4) 50周年記念グッズ

50周年の記念と、啓発にもなるグッズ内容を検討した。

(5) 50周年の祈り

2020年1月29日のカリタスジャパン委員会・部会合同会議で発表した50周年の祈り〈We are Caritas〉を7か国語に翻訳し、祈りのリーフレットを作成する。

(6) 50周年記念募金

50周年記念事業の一環として募金を呼び掛けると同時に、援助申請も募集する。詳細は援助部会にて検討するよう確認する。

2. 近況について

身近に感じている貧困問題などの情報を共有した。

次回日程 2020年4月28日（火） 14:00-16:00 日本カトリック会館

正義と平和協議会

■事務局会議

日時 2020年2月7日（金）10:00-16:00

場所 日本カトリック会館 会議室5

出席者 5人

報告

1. 講演会、企画の報告

(1) 改憲対策部会主催、ピース9の会協賛トーク集会「9条を育てる」

日時 1月18日（土）14:00-16:30

会場 カトリック大宮教会（さいたま教区）

講師 青井未帆さん（学習院大学）、松浦悟郎司教（名古屋教区）

参加者 90人

(2) 中期総合計画ワークショップ

日時 1月24日(金) 17:00-1月26日(日) 15:30

会場 ナザレ修女会エピファニー館(東京・三鷹市)

参加者 21人

ワークショップの報告書を作成中。後日、定例委員会で修正、補足を審議する。

2. 業務、企画の中間報告

(1) 国際パックスクリスティ世界大会

(2) 50周年記念誌

(3) 講演録(JPブックレット Vol.9) 編集作業状況

3. 部会報告

4. 社会司教委員会関係の報告

審議

1. 中期総合計画ワークショップの実施を全国会議とどのようにつなげていくか検討した。
2. 全国会議のプロブラム、日程の概要を検討した。定例委員会を経て、コンセプトペーパーを作り、参加者に周知する。
3. 定例委員会(2月13日)議案の審議
4. 日韓宗教者・市民運動連帯プラットフォーム会議への関わり方について検討。2月28日(金)に発足集会を行う。

■定例委員会

日時 2020年2月13日(木) 11:00-16:00

場所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 15人

報告

1. 講演会、企画の報告

- ・改憲対策部会主催シンポジウム「韓国の人々と手を取り合うために」

日時 2019年11月29日(金) 17:30-20:00

会場 イエズス会 岐部ホール(東京・千代田区)

講師 李泳采(恵泉女学園大学)、加藤直樹(ノンフィクション作家)

古屋敷一葉修道女(援助修道会)

台風で延期した10月13日実施予定のシンポジウム。参加者100人。

- ・改憲対策部会主催、ピース9の会協賛トーク集会「9条を育てる」

- ・中期総合計画ワークショップ

2. 業務、企画の中間報告

3. 部会報告

4. 社会司教委員会関係の報告

- ・司牧者対象出前講座の講座紹介
- ・審議中の企画の報告

審議

1. 中期総合計画ワークショップ

- ・概要説明と報告、ワークショップで明らかになった優先課題について説明。
- ・全国会議でどのように深めていくか討議した。

2. 全国会議のプログラムとワークショップを受けてのグループ討議について検討した。

全国会議

日時	3月5日(木) 14:00-3月7日(土) 13:30		
会場	3月5日 カトリック麹町教会(東京教区) ヨセフホール		
	3月6日-7日 YMCA アジア青少年センター(東京・千代田区)		
プログラム	3月5日	14:00-17:00	会議
		18:00-20:30	公開シンポジウム
			テーマ 正義と平和の原点について
			発題者 弘田しずえ修道女(ベリス・メルセス宣教修道女会)
			古屋敷一葉修道女(援助修道会)
			光延一郎師(イエズス会)
	3月6日	9:00-21:00	会議、交流会
	3月7日	9:00-13:30	会議、派遣ミサ

・5日はテーマ別グループ討議

「改憲」「死刑廃止」「沖縄の現状」「北東アジアの平和」「脱核」をテーマに問題提起を行い、グループで討議する。

・6日は中期総合ワークショップの課題を深める作業と分かち合いをグループで行う。

・7日は前日のグループワークの発表と派遣ミサ。

・会議のコンセプトペーパー作成について検討。

3. 50周年記念誌出版記念事業についての意見交換

■中期総合計画ワークショップ

日時	2020年1月24日(金) 17:00-26日(日) 15:00
場所	日本聖公会ナザレ修女会エピファニー館(東京・三鷹市)
出席者	21人

内 容

今年、正義と平和協議会は活動50周年を迎えるにあたり、原点を見つめる機会と捉え、今後の活動にいかすためにワークショップを行った。作業と分かち合いを通して正義と平和協議会の歴史を振り返り、現状を分析して課題を明らかにし、今後の優先課題を導き出した。今後、定例委員会、全国会議で内容を深めて中期総合計画を作成する。

部落差別人権委員会

■事務局会議

日時	2020年1月10日(金) 11:00-16:00
場所	日本カトリック会館 会議室3
出席者	8人

報 告

1. 2019年度第5回事務局会議(10月16日)
2. 2019年度第4回定例委員会(11月18日)
3. 社会司教委員会(12月11日)

4. その他
 - ・大阪教会管区部落差別人権活動センターについて
 - ・各教区の関連する活動について
 - ・ハンセン病家族訴訟について

審 議

1. 「ハンセン病謝罪声明」発表後の対応について
12月11日の社会司教委員会での審議結果が報告され、それを受けて当委員会としての対応を審議した。
2. 全国会議について
5月15日-16日に大阪で行う全国会議と公開講演会のテーマ、講師候補について審議した。その内容を定例委員会に提案し決定する。
3. 2020年度事業計画
 - ・出前研修
 - ・学習会、シンポジウムの開催地候補について検討した。
 - ・ハンセン病問題に関する小冊子発行について
4. 『いのちへのまなざし』抜粋冊子の展開
学校教育委員会主催の集いで冊子を配布してもらう。

■定例委員会

日 時 2020年1月22日(水) 11:00-16:00
場 所 日本カトリック会館 マレラホール
出席者 15人

報 告

1. 2019年度第3回定例委員会(9月18日)
2. 社会司教委員会(12月11日)
3. その他報告
 - ・大阪教会管区部落差別人権活動センター
 - ・各教区関連の活動について
 - ・ハンセン病家族訴訟について
 - ・国立療養所栗生楽泉園内の草津教会(さいたま教区)の聖堂について
 - ・優生保護法裁判について

審 議

1. 「ハンセン病謝罪声明」発表後の対応について
2. 全国会議
 - ・部落差別をテーマに決定した。名前の挙がった候補に講師の依頼をする。
3. 2020年度事業計画
 - ・年度テーマを「出会い、学び、祈るーハンセン病問題の真の解決とは！」とする。
 - ・学習会、シンポジウム
候補地を検討し具体化の可能性を探った。
 - ・ハンセン病問題に関する小冊子発行について
5月の全国会議までに「たたき台」を準備することを一つのめどとする。
 - ・研修などへの委員などの派遣
4. 『いのちへのまなざし』抜粋冊子の展開

子どもと女性の権利擁護のためのデスク

■事務局会議

日 時 2020年1月17日（金）14:00-17:00
場 所 日本カトリック会館 会議室3
出席者 4人

報 告

1. 福岡カトリック神学院講義
2020年2月13日（木）9:00-12:00は、事務局が対応する。
2. 大分教区「性虐待被害者のための祈りと償いの日」
2020年3月8日（日）15:00-16:00大分教会にて、みことばの祭儀の形式で集いを実施する。
講話はウェイン・バーント司教（30分程度）に依頼する。

審 議

1. 司教の集い（2月19日）関連事項
 - (1)ガイドラインワーキングチーム
 - (2)アンケート進捗状況のまとめと公表の方針
 - (3)講師
川喜田好恵さん（日本キリスト教団大阪教区人権侵害防止委員会委員、フェミニストカウンセラー）
に依頼する。
 - (4)ハラスメント防止の決意文、宣言文
2. 定例会議（2月23日）の議案についての検討
3. 1月の予定の確認
1月19日（日）-21日（火） 大分教区打ち合わせ
1月22日（水） 講師打ち合わせ
1月23日（木） 定例会議

■定例会議

日 時 2020年1月23日（木）13:30-16:30
場 所 日本カトリック会館 会議室2
出席者 13人

報 告

1. 大分教区相談体制の進捗状況について
2. 「未成年者への性虐待への対応に関するアンケート」の経緯について

審 議

1. 全国教区担当者対応委員会の集いについて
2020年11月27-28日に東京で開催予定。内容は今後煮詰めていく。
2. 勉強会について
5月26日の委員会で資料を使って勉強会を行う。
3. その他
性暴力被害支援者研修（SAFER）プログラムのスケジュールについて

■事務局会議

日 時 2020年2月6日(木) 15:00-17:30

場 所 日本カトリック会館 会議室5

出席者 5人

審 議

1. 司教の集い

午前中の講義の確認、午後の集いの進め方などを検討した。

2. アンケート調査結果と付随事項

アンケート調査結果の報告内容と、それに伴う事項(第三者検証委員会など)について検討した。

HIV/AIDS デスク

■定例会議

日 時 2020年2月12日(水) 9:30-11:30

場 所 日本カトリック会館 会議室4

出席者 10人

報 告

1. 定例会議(12月11日)

2. 事務局打ち合わせ(2月6日)

3. ミニカード第5版について

2月11日の世界病者の日に合わせ、カトリック新聞(2月9日付)に紹介記事が掲載された。

4. イベントなどの報告

立教大学(東京・豊島区)における出張講義(1月15日)、出前研修(2月13日、名古屋教区布池教会)

5. その他

- ・HIV/AIDS デスク直通電話開設のお知らせ(03-5632-4414)
- ・難民移住移動者委員会作成のHIV/AIDSパンフレット(ベトナム語)について
- ・U=U(Undetectable=Untransmittable)「検出限界値未満=HIVに感染しない」について

審 議

1. コンテンツ管理システム(CMS)によるホームページリニューアルについて

2. 2020年活動計画

3. 第7回勉強会<性教育 どこまで教えるの ～パート3～>(7月4日、大阪教区サクラファミリア)

4. HIV/AIDSデスク 内規(案)について

5. エイズキャンドルパレード(京都)について

次回日程 2020年4月20日(月) 13:00-15:00 日本カトリック会館

中央協議会事務局

■総務

4月会議予定

1日(水)	社会司教委員会事務局会議	日本カトリック会館
2日(木)	常任司教委員会	〃
2日(木)	エコロジー問題に取り組むための検討会	SJハウス・四谷(東京・千代田区)
2日(木)	子どもと女性の権利擁護のためのデスク事務局会議	日本カトリック会館
3日(金)	難民移住移動者委員会全国研修会準備会議	〃
17日(金)	タリタクム日本運営委員会/タリタクムセミナー	サクラファミリア(大阪市)
20日(月)	HIV/AIDS デスク定例会議	日本カトリック会館
21日(火)	正義と平和協議会定例委員会	〃
21日(火)	難民移住移動者委員会事務局会議	〃
28日(火)	カリタスジャパン委員会・部会合同会議	〃
28日(火)	カリタスジャパン啓発部会会議	〃
28日(火)	第33回校長・理事長・総長管区長の集い	都市センターホテル(東京・千代田区)

<会報 2020年4月号 公文書>

2020年四旬節教皇メッセージ

2020年四旬節教皇メッセージ

「キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい」

(二コリント5・20)

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

イエスの死と復活という偉大な神秘を新たな心で記念するために備えるのにふさわしい季節を、主は今年もまた、わたしたちに与えておられます。この神秘こそが、個人、共同体としてのキリスト者の生活の礎です。わたしたちは心と思いを尽くして、絶えずその神秘に立ち返らなければなりません。わたしたちがその霊的な力にすすんで関わり、広い心で自由に応えて受け入れるほど、その神秘はわたしたちのうちで広がり続けます。

過越の神秘、それは回心の基盤

キリスト者の喜びは、イエスの死と復活の良い知らせ、すなわちケリュグマを聞いて受け入れることから

生じます。ケリュグマは、「本物で、真実で、具体的なので、正直で豊かな対話に満ちた関係をもたらしてください」(使徒的勧告『キリストは生きている』117) 愛の神秘を要約しています。この知らせを信じる人は、自分のいのちの源は自分自身にあるという偽りを退けます。いのちはまさに御父の愛から、いのちを豊かに与えたいという御父のみ旨からこそ生じます(ヨハネ 10・10 参照)。けれども、「偽り者の父」(同 8・44 参照) がそそのかす声に耳を傾けるなら、不条理の深淵に陥り、この地上ですでに地獄を見る恐れがあります。人間が個人として、集団として経験したあまりにも多くの悲劇的な出来事が、痛ましくも物語っているとおりです。

ですからこの 2020 年の四旬節にあたり、わたしは使徒的勧告『キリストは生きている』の中で若者に向けて記したことを、あらゆるキリスト者と分かち合いたいと思います。「十字架につけられたキリストの広げた腕を見つめなさい。幾度も幾度も繰り返し救っていただきなさい。そして自分の過ちを告白しようとするときは、罪の憂いから解き放ってくださいキリストのあわれみを、固く信じてください。深い思いがこもった流れるその血をじっと見つめ、その血で清めていただきなさい。そうすればあなたは、つねに新たにされるでしょう」(123)。イエスの過越は過去の出来事ではありません。聖霊の力によって、つねに今ここにある出来事です。そして、わたしたちが苦しんでいる多くの人々のうちに、信仰によってキリストのからだを見て触れられるようにしてくれるのです。

2. 回心の緊急性

過越の神秘をより深く観想することは、皆さんのためになることです。神のいつくしみは、その神秘を通して与えられるのです。「わたしを愛し、わたしのために身をささげられた」(ガラテヤ 2・20) かた、十字架につけられ復活した主と「顔と顔を合わせ」てはじめて、神のいつくしみを味わうことができます。それは心と心との対話、友と友との対話です。ですから祈りが、四旬節においてとりわけ重要なのです。祈りは、義務というよりはむしろ、つねにわたしたちに先立ち、わたしたちを支えてくださる神の愛にこたえる必要の表れです。キリスト者は現に、身に余るほどに愛されていることを自覚しつつ、祈りをささげています。祈りにはさまざまなかたちがありますが、神の目から見て真に大切なことは、祈りがわたしたちの心の奥を深く掘り下げ、心のかたくなさを和らげているかどうかです。それによりわたしたちは、よりいっそう神とそのみ旨へと向かう回心ができるのです。

ですから、そのためにふさわしいこの期間に、イスラエルの民のように荒れ野に導かれましょう(ホセア 2・16 参照)。そうすれば、花婿であるかたの声をついに聞き、その声を心のうちで、より深く意欲をもって響かせることができるでしょう。そのかたのことばにすすんで関わればそれだけ、わたしたちに無償で与えられる主のいつくしみをますます味わえるようになります。ですから、主への回心の時期や方法を司るのは自分だといううぬぼれた思い違いで、この恵みの時を無駄に過ごすことのないようにしましょう。

3. ご自分の子らとの対話を望まれる神の熱意

回心にふさわしい時を主が再び与えてくださることを、当然のことと捉えてはなりません。この新しい機会は、感謝の気持ちを生じさせ、わたしたちを惰眠から目覚めさせるものであるべきです。教会生活や世界と同様、わたしたちの生活に、ときに劇的にすらなる悪の存在があるにもかかわらず、わたしたちの生き方を変えるためにこの季節が与えられているということは、わたしたちとの救いの対話を途切れさせたくないという神の揺るぎない熱意の表れなのです。十字架につけられたイエスを「神はわたしたちのために罪となさいました」(二コリント 5・21)。そのイエスにおいて、神の熱意は、ご自分の独り子にわたしたちのすべての罪を負わせるほどに、また教皇ベネディクト十六世が述べたように、「自らに逆らう神のわざ」(回勅『神は愛』12) となるほどまでに高まります。神はまさに、ご自分の敵さえも愛しておられるのです(マタイ 5・43-48 参照)。

神が、御子の過越の神秘を通して根づかせたいと願っておられる一人ひとりとの対話は、「何か新しいこと

を話したり聞いたりすることだけで、時を過ごしていた」(使徒言行録 17・21) アテネの住人がしていたようなものとは違います。空虚で浅薄な好奇心から生まれるこうしたおしゃべりは、どの時代においても世俗性の特徴であり、わたしたちの日々の生活の中でも、誤ったかたちのコミュニケーション手段になりかねません。

4. 独り占めせずに分かち合う富

過越の神秘をわたしたちの生活の中心に据えるということは、戦争や、胎児から高齢者に至るまでのいのちに対する虐待、さまざまなかたちの暴力、環境災害、地上の富の不公平な分配、あらゆる種類の人身取引、偶像の一つである利益を求めるあくなき欲望、それらの無数の罪なき犠牲者の中におられる十字架につけられたキリストの傷に、あわれみを覚えることです。

自分の所有物を、施しを通して困窮している人に分け与えるよう、善意の人々に呼びかけることは、今日においても重要なことです。施しは、より公正な世界を築くために個人として参与する一つの方法です。愛のわざを通して分け与えることは、人をより人間らしくします。一方、ため込むという行為は、人を利己心の中に閉じこめ、人間らしさを奪う恐れがあります。わたしたちは、さらに踏み込んで、経済の構造的な側面について考えることができますし、そうすべきです。ですから 2020 年四旬節の 3 月 26 日から 28 日の間、わたしは、経済を現状よりも公正で包摂的なものにするために、若い経済学者と実業家、チェンジメーカー(社会起業家)とアッシジで会議を行います。教会の教導権が何度も繰り返し教えているように、政治は愛徳の傑出した一形態です(教皇ピオ十一世「イタリア・カトリック大学連盟(FUCI)での講話(1927年12月18日)」参照)。同じことが経済活動にもいえます。同じ福音的な精神、真福八端の精神をもってたずさわるのであります。

神と和解させていただきなさいという呼びかけをわたしたちが受け入れ、過越の神秘を心の目で見つめ、神との開かれた真摯な対話に心を向けることができるよう、至聖なるマリアの執り成しをこの四旬節に願い求めます。そうすればわたしたちも、キリストが弟子たちになるようにと言われた、地の塩、世の光(マタイ 5・13-14 参照)となることができるでしょう。

フランシスコ

ローマ

サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂にて

2019年10月7日

ロザリオの聖母の記念日

カトリック中央協議会 「会報」 2020年4月号 (通巻578号)

発行日 2020年3月20日

発行 宗教法人カトリック中央協議会 <https://www.cbcj.catholic.jp>

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 電話 03-5632-4411 Fax 03-5632-4457